

特集=これまでも、これからも聴き続ける愛聴盤 (CD & DVD)

特別企画=2013年に来日する演奏家たち

音楽現代

The Ongaku

Vol.43

No.2

February

クラシック音楽誌

特別企画

2013年に来日する演奏家たち
鍵盤楽器奏者、弦楽器奏者、室内合奏団、歌手、他

特集
これまでも、これからも

聴き続ける愛聴盤 (CD & DVD)

インタビュー
マッシモ・ジヨルダノ、
井上道義、
尾高忠明、
小森谷巧、他

Concert Reviews

北海道、関東、 東京音楽界



ソーベニール・デラ・ムジカ

オーケストラ

ソーベニール・デラ・ムジカ第5回演奏会「進化する合奏協奏曲」

2009に結成された弦楽合奏団の合奏協奏曲特集。バッハの『ブランドンブルク協奏曲第3番』では厚ぼったく感じられるところもあったが、各声部は統率がとれ、率直な表現、第2楽章（横山真男編）は趣向に富む三重奏で印象を残した。高木和弘（vn）を迎えての2曲、まずヴィヴァルディの4つのヴァイオリンとチェロのための協奏曲op3-10では活き活きとした奏楽、独奏の高木の表現は明確で、表情も実に豊か、他のヴァイオリンのソリは華麗さにはもう一息ながら、それぞれの役割りを果たし、独奏のチェロは雄弁な表現で印象つけた。バルトークの『弦楽のためのデイヴェルティメント』Sz113では高木がコンサートマスターを務め、全体を鼓舞するように導いた。第1楽章では躍動感のある充実の奏楽、第2楽章は当時の作曲家の状況を想起させる暗澹たる雰囲気を作り、終楽章は独奏部分での冴えた弾奏もあって、活気溢れる表現で聞かせた。（11月11日、杉並公会堂・小）

（菅野泰彦）